

SHAKE HANDS Letter

創造・交流・成長

発行人 事務局 京都市ベンチャービジネススクラブ
 京都市中京区寺町通御池上る京都市産業観光局商工部産業振興課内
 TEL 075 (222) 3324

有言無限 地域主権時代の幕開け そのモデルを京都から



野宮神社



嵯峨野の竹林の中に静かに佇む野宮神社。平安時代からこの一帯は、伊勢神宮に仕える斎王が身を清める場所でした。神社正面には日本最古の形式とされる黒木鳥居と小柴垣があり、「賢木」の巻にはその風情が描写されています。六条御息所が娘の斎王とともに忌み籠もりをした場所であり、光源氏と御息所が離れがたい思いを抱きながら別れた場所でもあったのです。【写真提供】野宮神社

京都市長 門川 大作



そして、着実に政策の「融合」が進みつつあることを実感しています。現場から必ず京都が良くなっていくことを確信しています。

京都は、山紫水明の自然を有し、京都議定書を誕生させた環境先進都市。伝統産業の匠の技と先端技術とが融合するものづくり都市。そして、文化芸術、大学、宗教、人権、福祉、教育、国際、観光都市。これほど多様な特性が、それぞれオンリー1の光を放つ都市は世界中どこにもありません。

この京都の特性を更に磨き、市民の皆様との「共汗」と縦割行政を排した政策の「融合」により、「京都に住んで良かった」と実感していただける、地域主権時代のモデルとなる取組を着実に進めて参ります。本年もよろしく願い申し上げます。

新年おめでとうございます。市民の皆様への御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。

京都に生まれ、京都に育てられた私は京都が大好きです。市長に就任して10箇月、改めて京都の「凄さ」に感動しています。

今、極めて厳しい社会経済状況など、課題は山積しています。しかし、京都の優れた地域力、文化力、歴史力、人間力、これらの「京都力」を結集すれば、必ず乗り越えられると確信しています。「ピンチをチャンスに」、市民の皆様と共に汗する「共汗」で、未来への展望を切り拓く新しい年にしたいと決意を新たにしています。

市長就任以来、連日のように早朝から現場を、市民活動の場を回って参りました。「現場に神宿る」。現場に課題がある。しかし、その答も、課題を乗り越える知恵もまた現場にあります。私は、700箇所を超える市民活動の現場を回り、数多くの市民の皆様や職員の「共汗」の場面に出会いました。

KVBC海外研修 in 北京



Neusoft社



Neusoft社にて

スケールの大きさに圧倒。この日、京都の最高気温は13度程度でしたが、北京の最高気温は、なんとマイナス2度という寒さ。一行はバスに急ぎました。



会議室にて

Neusoft社 成長を追及するその姿勢

2008年12月5～7日、KVBC海外研修が行われ北京を訪問しました。

1日目。5日午前10時過ぎに、14名の一行を乗せ関西国際空港を出発した、全日空NH159便が北京を目指しました。3時間半のフライトを終え、現地時間の午後12時半頃、無事北京に降り立ちました。オリンピックにあわせターミナルビルを拡張した北京首都国際空港はととも広く、早くも中国の

バスは今回の研修のメインである企業訪問に向かいました。1時間ほどして到着した所は、中国のシリコンバレーとも呼ばれ、多数のIT企業や研究所が集まり、有名な北京大学や清華大学もある中関村。その一角に、拠点を構えてる、中国最大のソフトウェア企業であるNeusoft（ニューソフト）社を訪れました。

中央が吹き抜けの開放的なビルの中に入ると、まず体験センターに通されました。現地社員の方が流暢な日本語で、Neusoft社製品を搭載したモデル

カーやCTスキャナーなどの展示エリアを、丁寧に説明しながら案内してくれました。中国8カ所に地域本部、16カ所にソフトウェア開発・技術サポートセンターなどを展開。従業員数も13,000人余りに達するNeusoft社も、1991年の創業当時は、ろうそくの火を灯しながらシステム開発を行ったとか。そんな苦労話も紹介され、並々ならぬ企業努力があってこそその成長であると感じました。



Neusoft社製品を搭載したモデルカー



Neusoft社製品を搭載したCTスキャナー



体験センターにて

その後、会議室に通され、北京 Neusoft社の社長Dong Zhang氏も同席し、業態紹介が行われました。中国企業として初めて上場したNeusoft社の製品群は多岐にわたり、医療製品、セキュリティ製品、組込式プラットフォーム、データベース、企業管理ソフトといった豊富なソフトウェア製品・ミドルウェアが紹介されました。また、ITソリューションサービスは、中国国内で50%以上のシェアを誇る社会保険業界をはじめ、通信、電力、金融、交通、教育、製造業、電子行政などでも応用されているとのこと。中国市場におけるクライアントは15,000社にのぼるとのことです。また、そうした事業展開とは別に、情報学院や研修センターなども設立。何度もヒューマンリソースという言葉が登場したことから、その開発・育成・共有に力を入れている様子が窺い知れました。

ひととおりの説明の後、活発な質疑応答が交わされ、急激な成長のきっかけや、競合相手や今後のビジョン、成長スピードに関する質問などが次々と飛び出しました。それに対しZhang氏自ら、通訳を介して丁寧に回答してくださいました。

Zhang氏の発言で特に印象的だったのが、次の言葉です。「韓国では3つのことから逃れられないと言われてます。①税金を納めること、②死ぬこと、③サムスンです。我々は中国のサムスンを目指しています」。現状に甘んじることなく、飽くなき成長を追求するその姿勢に、大いにベンチャースピリットをかき立てられました。

最後に、井上代表幹事がお礼の言葉を述べ、訪問記念として清水焼をZhang氏に贈呈、視察は無事終了しました。



井上代表幹事からZhang氏に清水焼を贈呈

万里の長城



その後、車窓から北京オリンピックのメインスタジアムとなった「鳥の巣」や、水泳競技場となった「水立方」を眺めホテルへ。夕食に四川料理を賞味したあと夜市を歩きました。屋台で売られているタツノオトシゴや蚕の串刺し・その他いかにも怪しげな食材に目をみはったのちに、京劇を鑑賞。中国の新しい顔と昔からの顔を見て、1日目を終えました。

中国の歴史に思いをはせる

2日目。7時半にホテルを出発。バスは、天安門広場に向かいました。100万人も集うことができるこの広場は、中国の歴史や政治的ニュースにたびたび登場しますが、意外にもその光景は穏やかで、早朝にもかかわらず多くの観光客がいました。

とにかく広い天安門広場を歩き、毛沢東の肖像画が掲げられた天安門を抜けると、ラストエンペラーでも有名な故宮博物院（紫禁

城）に入りました。京都御所の6.5倍の広さを持つ故宮には、天安門を含め4つの門があり、その間には大きな広場と宮殿などがあり、豚の血に鉄などを混ぜた朱色の塗料で塗られた周囲の城壁、宮殿の屋根の黄色が幾重にも重なっていました。

故宮の内部から周囲を見渡すと、この地がかつて「宇宙の中心」と言われたのも頷けました。この故宮には、約500年にわたって24人の皇帝が居城したそうです。広大とはいえ、高さ10mの厚い城壁に囲まれ、外の世界から隔てられた生活は決して自由ではなかったでしょう。歴代の皇帝はこの景色をどのような想いで眺めていたのだろうか、感慨深く思われました。

ただ、そうした気持ちになったのは後のことで、そのときは身を切るような寒さのなかを歩いてたので、お互い顔を合わせれば「寒い、寒い」を繰り返すのみ。ようやく故宮をとおり終え



天安門広場



夕食の四川料理

たときには3時間近く経っていました。

その後、七宝焼工房を見学。昼食の餃子料理を楽しんだ一行は、万里の長城を訪れました。悠久の時を経て今なお荘重なその姿は、やはり圧巻と言わずにはいられません。多くの観光客が途切れることなく歩いており、すりへった石畳は、訪れた人々の多さを物語っていました。傾斜が急な男坂と、比較的緩やかな女坂とがあり、一行は青空のもと、それぞれのペースで歴史を踏みしめました。1日中歩きどおしだった一行は、茶芸館に立ち寄った後、本場の北京ダックと北京料理に舌鼓を打ち、疲れた身体を癒しました。

新旧中国を実感して

3日目。一行は世界遺産の一つである天壇公園を訪れました。天壇は、明・清王朝の皇帝



祈年殿

が天地の神を祀り豊作を祈った場所で、故宮の3倍を超える敷地面積を誇ります。敷地内には、瑠璃瓦の円形塔で北京のシンボルマークでもある祈年殿や、稲妻や雷などの祭殿があります。また、市民の憩いの場でもあるため、そこかしこで合唱や青空カラオケ・トランプ・太極拳・二胡演奏・踊りなどに興じる地元の方の活気溢れる姿も見られました。寒さをものともせず楽しんでる姿に触発され、一行

も蹴鞠によく似た遊びの羽根蹴りを楽しみました。

こうしてすべての行程を終えた一行は、スモッグにかすむ北京市街を抜け、帰路につき、無事に関西国際空港に到着。

今回の北京訪問では、中国の新しい顔と昔からの顔を見ることができ、急速に発展する経済と歴史的建造物、その双方に中国のスケールの大きさを実感する有意義な研修でした。

集客交流研究会 開催

2008年12月15日(月)、株式会社ユニシス会議室において集客交流研究会12月例会が開催されました。今回は株式会社ぐるなびより、猪瀬健治氏、中川雄二郎氏、荒木則雄氏、西崎理氏をお招きし、株式会社ぐるなびのビジネスモデルや、グループとしての取り組み、今後の事業展開をご説明いただきました。

「インターネット販促 ～割

引・値引きに頼らない～」と題し行われたお話。インターネットや携帯電話の普及状況、国内経済と外食産業の市場変化についての分析結果を交え、今後の飲食店の目指すべき方向性・課題が提示されました。いかに客単価を下げずに客数を増やせるか、リピート客を獲得するための仕掛けができるか、それらの問題は、インターネットを介し「適切な時期」に「適切なターゲット」へ「適切な告知」をすることにより解決することができるのではないか、また、ユーザーの求める情報を、手軽に、早く提供することが大切、との認識が示されました。



その後、ネット販促の効果などに触れ、インターネットやモバイルの利点である情報の多様性や速度を活用することがビジネス成功の鍵となる、とご説明がありました。

質疑応答では「ぐるなびで紹介する飲食店に、客観的な評価をつける予定はあるのか」「店舗プロデュースは行わないのか」など、活発な質疑応答が交わされました。

京のすぐれもの探訪

京都には、匠の技術が活かされた伝統工芸品や京野菜に見られる京都独自の食材など、すぐれものが多種多様にあります。そのような有形無形のすぐれものを取り上げ、現代社会のなかでの新しい活用法や、その可能性についても併せてご紹介いたします。

炭素繊維の西陣織

～発想を現実にするチャレンジ精神～

着物などに彩りあふれる艶やかな模様を写す、京都の先染め織物「西陣織」。そもそも西陣という名の由来は、応仁の乱の際に西軍が本陣を敷いたことからついたといわれている。応仁の乱で、戦火を逃れた職人たちが、乱が終わるとともに帰京し、諸国で習い覚えた技術を加えて、京織物を再興、「西陣織」が生まれた。その後、宮廷文化を中心に発展してきた「西陣織」は、日本の織物の最高峰といわれている。

京都の伝統産業の一角を担う「西陣織」。その技術、ノウハウを生かしながらも、最新技術を取り入れることで、「現代の西陣織」ともいえる「カーボン西陣織」を開発したのが「有限会社 フクオカ機業」だ。

本来は絹で織られる「西陣織」をF1カーや航空機の内装に使われる炭素繊維で織る「カーボン西陣織」。炭素繊維は汚れなどを吸着しやすいという特徴をもっており、川や海でのヘドロ除去などで利用されているが、流れの強い場所では繊維が耐え切れず、ちぎれてしまうことが多かった。それを織物として織ることで強度を増すことに成功。今では水質悪化に悩む各地の漁業組合からの問合せも多いそうだ。また、大阪の衣類製造業者「サクセスプランニング」との共同開発により、建築現場の防護ネットなどに使われる超高強度ポリエチレン繊維を織り込むことに成功、カッターナイフで切りつけても刃を通しにくい、画期的な対刃防護生地を作りだした。その技術を生かし、「安全・安心」をキーワードに、対刃防護生地を使った、子ども用のジャケットやキャップなどを世に送り出している。そして、平成16年には、起業家の資質、技術を評価する、京都市ベンチャー企業目利き委員会より、炭素繊維等を使った「高性能繊維の開発・製造」が評価され、最高ランクのAランク認定を受けている。

繊維の特性を把握し、試行錯誤の末、独自の製法をみだしさまざまな商品を開発している「フクオカ機業」。根底にはしっかりと根付いた「西陣織」の技術がある。その上最新技術を組み合わせるといって、いわばチャレンジ精神というべきものは、ビジネスを成功に導くためには必要不可欠なものだろう。

繊維あれこれ

一概に繊維といっても、さまざまな種類が存在する。絹やウールなど、動物の毛などで取られる「動物繊維」。綿や麻など、植物から取れる「植物繊維」など、自然のものから取れるものは、総じて天然繊維と呼ばれている。ナイロン、ポリエステルなどの「合成繊維」や「ガラス繊維」、「炭素繊維」など、人の手から生み出されるものは科学繊維と呼ばれており、近年ではさまざまな種類の科学繊維が生まれている。

にぎやかに開催

2008年12月19日(金)、欧風中国料理店「ミスターハル」において、約50名が参加し、KVBC恒例の忘年会が開催されました。株式会社コミュニケーションの濱中幹事の司会のもと、井上代表幹事の開会挨拶ではじまった忘年会。厳しい経済状況ではあるがKVBC会員はピンチをチャンスに変えていくとの、力強い決意が示されました。京都市産業振興課・北村課長による来賓挨拶に続き、KVBCのものづくり研究会、人材ネットワークプロジェクト、



集客交流研究会、グローバル研究会から活動報告が行われました。その後、藤関前代表幹事による乾杯のご発声で、会場は大いに盛り上がりました。

アトラクションでは、榎島プレイボーイズ、そして特別ゲストの美月ユミさんのバンド演奏が始ま

り、『千の風にのって』『コーヒールンバ』などが演奏され、大盛況のステージに参加者全員が引き込まれました。

恒例のビンゴゲームでは、有志による2人のサンタクロースが登場するなど、こちらも大盛り上がりで行われました。そして、クリスマスソングの大合唱。榎島プレイボーイズ、美月ユミさんが再びステージに立ち、素晴らしい歌声と演奏に合わせ、参加者全員で『サンタが街にやってくる』『赤鼻のトナカイ』『きよしこの夜』を熱唱しました。

ものづくり研究会の田中代表による中締めの後、大東副代表幹事による一本締めで、忘年会は幕を閉じました。



榎島プレイボーイズ



美月ユミさん



会員動向

ジュニア会員から一般会員への移行登録について
(入会后3年間経過のため)

(株)とめ研究所
(有)ミュウ

Information 活動報告 & 予定

12月 5日(金) KVBC海外研修旅行「中国・北京」
～ 7日(日) 北京市内企業訪問・交流と、史跡文化財の視察

12月19日(金) KVBC忘年会 (ものづくり研究会合同)
欧風中国料理「ミスターハル」

12月15日(月) **集客交流研究会** 12月例会
講師：(株)ぐるなび

1月21日(水) **KVBC1月例会**
「労働契約法について」(社会保険労務士)
「起業から今までの経営哲学」(井上代表幹事)